

# 宇宙開発研究資産の事業化 に関するメモ

東京大学  
竹内佐和子

# 日本の緊急課題

- 財政制約の拡大
- 新産業の不足
- 国の資産の有効活用の遅れ
- 研究開発先行型で応用分野が不明
- 税金を使うことへの慣れと研究成果の独占傾向

# 宇宙開発技術予算

- ロケット技術、上げることに専念
- しかし、すでに成功した技術資産は国民の財産
- 科学者および政府の独占資産ではない



どの程度の需要があるかを考えるべき

# 公共資産の事業化モデルの模索

- 所有と経営・運営の分離
- 課金ビジネスの適用
- 公共と民間ビジネスの契約モデルの開発
- ロケット予算はどの程度削減できるか(安全保障と外国との共同利用?)

# 現在の研究開発費の事業化部分

- 何割くらいが事業化可能な分野か
- 衛星一回400億円でペイできるビジネスがどのくらいか
- 衛星ビジネス市場の縮小傾向をどうとらえるか
- 世界的な経済低迷状況

# 新産業とのリンク(例)

- 環境分野: 気象衛星、水循環、土質の循環に関するデータベース化
- 衛星通信: 交通、通信、人の動きに関するデータベース化
- 物流
- 医療
- その他(政府需要)

# 現在の産業化の間違い

- ロケットを上げるところから民間が行う必要はない
- H2の利用を考えては？
- 利用部分を考えるのが民間の役割
- 安いほうがいいのであればもっと安い性能のロケットでも可能
- 価格競争以外の側面

# 民間需要として必要な規模？

- 1000億円くらいか？
- クライアントはどこに？
- 資金調達？
- 宇宙民間コンソーシアムは可能か？